

# 地域医療を守る 各地の取り組み

## 今村洋一理事が演題発表

11月25日(土)～26日(日) 大分県全労済ソレイユ7階にて、第29回保団連九州ブロック地域医療交流会が開催され、九州各協会より87名の参加がありました。佐賀協会からは、野田芳隆顧問、藤戸好典会長、新井良一副会長、古賀聖祥常任理事、今村洋一、梅津健太郎・中島雅典・藤瀬恭平各理事と事務局2名が参加しました。2日目の交流会では、今村理事が演題発表を行いました。

以下、参加者からの報告です。

### 1日目

第29回保団連九州ブロック地域医療交流会の記念講演として、「近づく南海トラフ地震と頻発する活断層性直下型地震」「ゆれ」と「津波」を災害にしないための事前減災対策」をテーマとしてご講演がありました。演者は高知大学特任教授の岡村眞先生で、ご講演の中で、日本に住んでいる以上それなりの減災対策がどの地域でも必要であり、特に私たち医療機関は、災害があれば震災当日から地域の中核として活動しないといけないため、一層の準備が必要である事、そして組織のリーダーは、その指示がグループ全体の運命を

決めてしまうことを、実際にあった事例を踏まえて具体的にお話ししていただきました。私が特に印象に残ったのは、東日本大震災の地震直後に顧客データのフロッピーを集めているうちに逃げ遅れ、壊滅的な結果を招いた事例でした(ちなみに被害に遭遇したフロアは2Fであり、同一建物の1Fと3Fの従業員はいち早く非難して無事であったとのことでした)。

震災が起こった際には、何よりも人命を優先することは頭の中では理解しているつもりなのですが、実際にその状況になった時に自分は果たして正しい判断ができるであろうかと考えさせられました。

また先生は、地震は周期的に発生しており、現在、想定されている「南海トラフ地震」は今後30年の間にかなりの高い確率で発生するとの見解もお話しされ、「そのためにはでき得る限りの準備をしておく必要があります、その準備を怠ることは、地震を自然現象ではなく、人災へと導いてしまう」との講演内容は、全くもって同感するものでした。

私たちは地震大国、日本に住んでいるのですが、その事を日頃は忘れて日常生活を送っています。今回のご講演は、改めて



記念講演講師の岡村眞先生



演題発表する今村洋一理事

地震に対する備えを見直すきっかけとなりました。ぜひ、皆さんの施設でも一度、スタッフみんなまで話し合ってみてはいかがでしょう？  
ところで、講演の後、岡村先生とお話する機会があり、その中で先生の実家がわがクリニックに大変近い事が分かり大変驚きました。ぜひ、佐賀でもご講演いただけると嬉しく思います。  
(理事 今村 洋一)